

第11回「道の駅」第3ステージ推進委員会 議事概要

令和6年6月27日

○議事（１）第3ステージを加速化するための取組

（評価室より資料1、2について説明。）

【石田委員長】

・国の意思が反映できる体制強化ということは大事なことであるが、今の「防災の道の駅」は県の広域防災計画に位置づけられてくることが要件として記載されているため、自治体と県と国がどう連携していくかということは大事になってくる。

○議事（２）「道の駅」第3ステージ 中間レビューと今後の方向性

（評価室より資料3、4について説明。）

【楓委員】

・モデルプロジェクトの「もてぎ」と「とみうら」について、実際に何をどのように取組んでいるのかが伝わりにくい。

・例えばハンドブックのような別媒体で、他の「道の駅」の方が分かりやすいような詳しい提示の仕方を模索してほしい。

【山田委員】

・まちとの一体化は、「道の駅」が公益機能を担うべき施設ということを考えると、非常に重要である。

・まちぐるみという方向性がより広く浸透していけば、中山間地域の福祉や教育といった分野へも貢献できるのではないか。

・市町村と住民と「道の駅」がリニューアルのときに、どのように中長期的に自分たちの「まち」を考えて、「道の駅」を位置づけるかが重要なポイントだと思うので、それらを自治体塔へ浸透できるような工夫が必要である。

・人口減少や少子高齢化、過疎化が進んでいくと、単一ではなく複数の市町村で取り組んでいく時代になる。

・広い枠組みの中で「道の駅」を考えるという傾向になると良いと思う。

【豊田委員】

- ・観光・地方創生を考える際に持続可能なというビジョンを入れ込む必要がある。
- ・高齢化社会へのビジョンという課題は日本だけではなく、ドイツや諸外国でも非常に関心の高い課題で、それに対して日本が「道の駅」を通じてどういう取組をしているかというのは非常に関心が高い。
- ・持続可能なビジョンを持ち、まちぐるみで取り組む仕組みを構築しているような「道の駅」の特徴がグローバルに戦略的に押し出されることが重要である。
- ・持続可能な地域のまちづくり、地域センターとしての拠点、防災機能、社会福祉、教育も含めて連携したものであるということが「道の駅」の世界ブランド化だと思う。
- ・このようなコンセプト自体が世界ブランドであるということを押し出す必要がある。

【徳山委員】

- ・とりまとめの大きな方向性は異論なし。

【原委員】

- ・「道の駅」ごとに抱えている課題は大きく異なる。
- ・地域の状況を理解した形の伴走型支援にしていきたい。
- ・特にまちぐるみでの徹底した議論とあるが、その後の推進体制に結びついていくような支援の仕方をしていただきたい。

【篠原委員】

- ・「まち」と「道の駅」で運営が連携をしていないところが多くある。
- ・研修会等により啓蒙していく必要がある。

【根岸委員】

- ・データに基づく分析は重要であり、それらを公表していく見える化は重要ではないか。
- ・地域ぐるみで取り組むにあたり、道路協力団体や地域づくりに関わる団体が協力し合うことが重要である。
- ・道路協力団体等との連携についても応援していただきたい。

【国崎委員】

- ・新型コロナが流行した際も「道の駅」ではどんな課題や苦労があって乗り越えてきたのかなどに全く触れていないのはどうなのか。
- ・中間レビューなので 2025 年までの目標値だけではなく、現時点の KPI の状況を巻末資料ではなく本文に載せるべきではないか。

- ・全国道の駅連絡会の功績として、企業と道の駅を結んでいるので記載していただきたい。

【石田委員長】

- ・第3ステージの姿はあらゆる人たちがという部分が少し弱いような気がするため、表現を工夫していただきたい。
- ・モデルプロジェクトはザ・モデルプロジェクトではないと思う。
- ・デジタル田園都市国家構想交付金の TYPE-1 のお手本になるような完成度には至っていないと思うので、応援パッケージと一緒に完成度を上げていってほしい。
- ・第3ステージを始めるときの1つのキーワードがネットワークだったが、とりまとめに書かれているようにすべて全国道の駅連絡会でできるわけではない。
- ・他にもネットワークは様々あるので、記載を充実させてほしい。

【根岸委員】

- ・今回の議論は地域側の視点が強く、顧客の視点からの関係性の構築も重要ではないか。

【石田委員長】

- ・今後の方向性について基本的な姿勢は賛成いただいたと考えている。
- ・今回挙げた意見については事務局と議論し修正をしていく。
- ・各委員にはメール等で確認いただき、コメントいただくようにしたい。

— 了 —